

知事記者会見の概要

日 時：令和3年7月29日(木) 15:15～15:36

場 所：502会議室

出席者：知事、防災くらし安心部長、健康福祉部長、医療統括監、
広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆様、大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

新型コロナについて申し上げます。県内では、本日18人の新規感染者が確認されました。累計で2,119人となったところであります。2桁の感染者数となったのは、7月10日以来、19日ぶりであります。本日、山形市から発表があると聞いておりますが、山形市内で新たなクラスターが確認されたようであります。

また、インド由来のL452R変異株がこれまで4件確認されております。

最近の新規感染者を見ますと、先週の4連休及びその前後で、首都圏や関西圏との往来に関連する方の感染が目立っております。また、7月に入ってから年齢別で見ますと、感染者99人いるのですけれども、そのうちの65歳以上の方は4%の4名でして、64歳以下の方は96%の95名となっております。若い世代の感染者が増加している、これが最近の特徴であると捉えております。

県外に目を向けますと、昨日、東京都では、1日当たり過去最多となる3千人を超える新規感染者が確認され、全国では9千人を超えました。東京都を中心とする首都圏だけでなく、関西圏をはじめ、全国の多くの地域で新規感染者が増加傾向となっており、これまでの感染の波を超える勢いで再拡大しております。こうした全国的な感染拡大の影響は、本県でも例外ではありませんで、県内でのこれ以上の感染拡大を防ぐということが肝心であると思っております。

それで県民の皆様には、次の2点について改めてご協力をお願いいたします。

まず、1点目ですが、変異株は感染力が強いとされておりますが、感染経路が変わるわけではありません。それで、飛沫や空気感染などの対策が、これまで以上に重要となります。県民の皆様には、感染のリスクが常に身の回りにあるという意識を今まで以上に強く持っていただいて、改めて、正しいマスクの着用、こまめな手洗い、そして消毒、三密回避、換気の励行といった基本的な感染防止対策を徹底して下さるようお願いいたします。

次に、2点目ではありますが、首都圏や関西圏との往来に起因する感染が増加傾向にあります。このことをご認識いただいて、旅行や仕事も含め、県境をまたぐ不要不急の移動は、ご家族やご友人等とも相談して、これまで以上に慎重に判断するようお願いいたします。

特に、緊急事態宣言の地域、東京都と沖縄県や、まん延防止等重点措置が適用されている地域、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府との不要不急の往来を控えていただきますとともに、政府のステージⅢの指標である新規陽性者数が10万人あたり15人以上の地域、北海道、茨城県、石川県、京都府、福岡県との往来は十分に注意していただきますようお願いいたします。

なお、不要不急に通勤通学などは含まれませんが、テレワークやオンラインといったことを積極的に活用していただくようお願いいたします。

また、本日の午前9時から、山形県新型コロナワクチン接種事業の予約を開始しましたところ、9時40分に予約枠上限に達しました。6,048人となりました。多くの県民の方からご予約をいただいたところでもあります。

ワクチン接種はコロナ対策の要であります。あくまでも強制ではなく希望に応じてではありますが、県民の皆様には、積極的に接種をご検討くださいますようお願いいたします。特に、20代から30代の若い方々には接種控えも見られるとの調査もありますので、政府や自治体、医療関係者などが発信する正しい情報に基づいて、適切にご判断をお願いしたいと思います。私からは以上であります。よろしくお願いいたします。

☆フリー質問

記者

朝日新聞の鷲田と申します。大都市圏で増えればその後には地方に来るというのは、これまでのずっとの流れですけれども、今東京では、東京オリンピックも行われております。こういったものが起因しているというふうに考えますか。

知事

そういったエビデンスというものは、私は持ち合わせてはおりませんが、全国的に増えているということでもありますので、2週間前の状況が、今出ているということでもありますので、その頃のやはり人流があったのかなというふうには思っています。

記者

現時点で昨日の知事会見でもおっしゃっていましたが、特に中止するというような考えではないということは、これまでもおっしゃっていましたが、今回のこの県内の状況を見て改めて知事にお尋ねします。要は、東京オリンピックはこのまま続けてよいのかだめなのか、そこら辺をお願いします。

知事

はい。だいたい2週間前の状況が、今の新規感染者確認ということにつながっていると思いますので、それとオリンピックとの関連というところまでは、私は確たるデータは持ち合わせてはおりません。ただ、人流があったということでもありますし、今の発表で申し上げましたように、首都圏との往来、また関西圏との往来ということに起因する感染が目立っているということが言えますので、直接オリンピックというふうには、まだちょっと断定できないと思います。オリンピック、今本当に真っ最中でありまして、皆さんご家庭でテレビに釘付けというような状況があるのではないかと考えております。途中で止めるというようなことには、それは現実的でないのではないかと考えておりますし、選手の皆さんが、アスリートの皆さんが本当にこれまでの成果を出し切って国民・全世界の人々に感

動と活力を与えてくださっておりますので、まずしっかりやり切ることなのかなというふうに思っております。そして私達の仕事というのは、やはり現在のこの感染状況というものをしっかり抑えていく、そのことに尽きるというふうに思っております。

記者

あともう1点。オリンピックは関係ないにしても、東京のほうでは緊急事態宣言というものが2週間ほど前から出ています。これのそもそもの効果というところを知事自身どのお考えになりますか。

知事

はい。だいたい報道でいろいろな状況というものを、情報を得ているところでありますけれども、やはりコロナ慣れしているという状況があるのかなと。全員ではないにせよですね、しっかりとその対策をとっている、私の知り合いも東京におりますので、しっかりと対策をとっている方々もおられますけれども、とにかく人口が多いところで、なかなかその人流が減るということにはなっていないのかなというふうに見えますね。

記者

最後に。これから減ってくれることが望ましいですけれども、県内で増え続けた場合に、今後、以前出したような独自の緊急事態宣言ですとか、そういったものを発出されるご予定はありますでしょうか。

知事

どーんと本県も、山形市のクラスターというものが出ましたし、これからの医療ひっ迫度、これをやはりしっかり注視していかなきゃいけないなと思っております。

今のところ幸いなことに、重症者の方はおりません。が、どんどんと、一気にこのように2桁になったりまたそれが続いたりしますと、重症者の方も増えたりする可能性もありますので、若いから重症にならないということではない、変異株は若い方も重症者が出るというふうにも聞いておりますので、そこはやっぱり医療のひっ迫度というところをしっかりと注視しながら対策を考えていきたいと思っております。

記者

共同通信の吉岡といいます。先ほどのお話だと、首都圏とかの往来というところに起因しているというお話でしたけれども、福島だったりとか隣県でも増え始めているという、例えば宮城県ですと、オリンピックで言えば有観客でやったという事情もありますが、そういった宮城だったり福島、そういうところの影響は今どのように考えていらっしゃるか教えてください。

知事

はい。本県の場合、感染経路は全員がわかっているわけではないのですが、わかっている範囲内で申し上げますと、先ほど申し上げたようにやはり首都圏との往来、そして関西圏との往来、そこに起因する、関連した感染ということが目立っております。隣県ということではないようであります。

記者

毎日新聞の小寺です。よろしくお願ひします。表(補足:会見で示した新規感染者数の推移)を見ると、国内第5波というふうになってはいますが、まだ県内については第5波というふうにはお考えではないですか。

知事

そうですね。7月に入ってからそんなにそんなに、10日くらいまでは少しは出ましたけれども、あとゼロとか1桁というようなところでとどまっておりましたので、これまではまだ第5波とは言えないと思っておりますが、一気に18名という数字になりました。これから第5波に入る可能性はあると思っております、本当に改めて気を引き締めてしっかり県民の皆さんと一緒にあって対策を取り組まなければいけないなと思っております。

記者

NHKの藤井です。若い人の感染が増えているとおっしゃったところで、ちょっと聞き逃したのが99人というのは。

知事

7月に入ってから新規感染者の人数が99人です。

記者

7月に入ってからですね。なるほど。それで、64歳以下が96%で、若い人とおっしゃったので、年代別でもっとありますか。

知事

年代別ですか、では申し上げます。0歳～9歳までが7名で7.1%。10歳～19歳までが13名で13.1%。20歳～29歳までが20名で20.2%。30歳～39歳までが9名で9.1%。40歳～49歳までが28名で28.3%。50歳～59歳までが16名で16.2%。60歳～64歳までが2名で2.0%。65歳～69歳までが0名であります。70歳～79歳までが2名で2.0%。80歳～89歳までが1名で1.0%。90歳以上というのが1名の方で1.0%です。男女比は、不思議なことにいつもそうなんですけど、大体半々になっています。

記者

40代が一番多いんですかね、割合としては。これを見て若い人、現役世代の感染が多いと。

知事

はい、そうですね。働いている若い世代とといいますか、ワクチンがまだなのかなと。そこが、ですから若い方々もワクチンをぜひご検討くださいと申し上げました。

記者

若い方はちょっと乗り気ではないというところもあるんでしょうけど、働き盛りの40代というのがありますけど、その辺については今後。

知事

はい。働き盛りの40代、しっかりとワクチンを接種していただきたいと思っています。というのは、職場というのがありますし、ご家族というのがありますので、感染の拡大と言いますかね、そういったことが考えられますので、ぜひ早めに接種されたほうがよろしいのではないかと。もちろん強制ではないんですけれども、希望される方はなるべく早くというようなことを私から申し上げたいし、あと、20代、30代の方が接種控えということがあるという調査がありますけれども、できる限り、正しい情報というものでご判断をいただきたいと思っています。

記者

あともう1点、首都圏で気のゆるみが見られるんじゃないかとおっしゃいましたが、県内はいかがですか。

知事

県内は、多くの方々のご協力といいますか、対策していただいていると思いますが、首都圏との往来、関西圏との往来というところを見ますと、やはりどのくらい今まで行っていたかということもバックデータはなかなか無いんですけれども、感染経路で見えますと移動による感染とみられるケースが目立っておりますので、ちょっと移動を始めたのかなということで懸念をしております。

記者

ただ、経済を回すために旅行とかは、ある程度感染防止対策を取りながらということをこれまでも進めてきたかと思うんですけど、この国内での感染の再拡大、この局面においてそういったメッセージとしては、何か変えるところはあるんでしょうか。

知事

はい、やはりマスクを外しての会食といいますか、そういったことはやはり大きなリスクになっているのかなと思います、1つはですね。ですから、移動されたとしてもその行動をする時にしっかりとそのコロナ対策ということを実施していただければと思っています。

記者

山形新聞の田中です。先ほど不要不急の移動とか、自粛を求められましたけども、これから夏休み、お盆に入って、当然帰省であるとか、そういった動きが当然出てくると思います。そこに対する知事のメッセージですね、あとは市町村との情報の共有とか連携が当然必要になってくるかと思えますけども、そこのお考えをお聞かせいただければと思います。

知事

はい。本当に子どもたちが夏休みに入ったり、また若い方が夏休みで帰ってきたりというようなことで、あと成人式とか、いろいろなことがやはりこれから予定されているのだと思いますけれども、くれぐれもその感染防止対策、ここは基本的な感染防止対策を徹底して、その上で実行していただきたいと思っています。

お盆ということも近づいておりますけれども、改めて県内の医療専門家の皆様のご意見も頂戴して、また私から県民の皆さんにご協力をお願いすることになるかというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。そうしますと、おそらく大学進学とか仕事とかで県外に行かれている方がふるさとに戻ってきたいという時期に来たら、何がしかのまた改めて知事としてのお考えも発せられるということになるのでしょうか。

知事

そうですね、はい。そのように考えております。